

東京農業大学稲花小学校

学校だより【3月5日】第40号



一斉臨時休業

文部科学省元文科初等 1585 号「新型コロナウイルス感染症対策のための小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業について(通知)」(令和2年2月28日付)による全国一斉の臨時休業の要請に基づき、また、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大の防止に重要な時期であることを踏まえ、農大稲花小学校も、3月2日(月)～3月19日(木)を一斉臨時休業といたしました。このため、予定されていた学習発表会や修了式は中止となり、2月28日(金)が、1年生72名にとっては学年最後の日となりました。

休業決定から休業開始までたったの一日しかありません。2月28日(金)の朝には、修了式に替えて、各組ごとに校長の講話を行いました。入学してからの子どもたちの成長を喜び、また、一斉臨時休業の目的、休業中の生活の注意など話すとともに、次に登校するときは全員が二年生になっていることをあらためて意識させました。話を聞く子どもたちの表情は真剣で、逞しささえ感じるものでした。教員はこの一日を有効に活用して授業を行い、たくさんの持ち帰り荷物とともに、子どもたちを帰宅させました。

本校では、本校 HP「在校生メニュー」を通して、保護者に向けた複数回のお知らせを発信し、一斉臨時休業の趣旨、期間、運用方法などについてご理解をいただくことに努めています。

家庭学習の大切さ

一斉臨時休業がはじまった3月2日(月)、本校では、子どもたちの家庭学習について検討し、家庭学習の課題を保護者に向けて発信しました。予期しなかった一斉臨時休業の開始ですが、春休みや夏休みとは違います。この期間においても、日々の学習の習慣を失うことなく、規則正しい生活を行わせること、また、1年間の学習を学力として定着させる大切な時期であることを踏まえ、保護者の皆様にも、家庭学習についてご協力をお願いいたしました。とくに、低学年の子どもたちの家庭学習においては、保護者が寄り添って指導することが必要です。保護者の皆様も、それぞれのご予定のある中ですが、何よりも大切な子どもたちです。子どもたちを優先した生活をしていただきますようお願いいたします。

木工を楽しみました

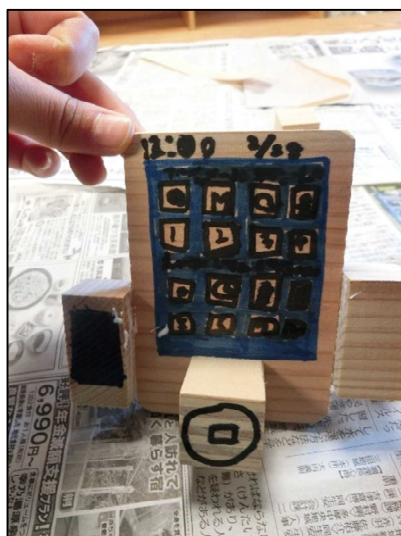
2月20日(木)・21日(金)・27日(木)・28日(金)と各クラス2週にわたり、東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科の大林宏也教授による「木工」の授業が行われました。1週目は木の話とキーホルダーづくり、2週目は、1週目の経験を生かして自由工作となりました。1週目の木の話では、木とはどんな植物なのか、模様の意味、節や年輪のこと、木のおいや手触りのこと等を説明していただきました。

自由工作では、各自が同じ材料を使ってキーホルダー作りをしました。紙やすりの使い方を学び、表面を滑らかにすることで、新しい質感があることを学びました。さらに、それぞれが好きな模様を描いて、思い思いの作品を仕上げました。

中には、彩色をせずに白木のままのキーホルダーを作って、見せてくれた子どもがいました。「あれ？あなたは色を塗ってないの？」と聞きましたら、「いえ、この木の模様がとても素敵だから、そのままにしておきたいくて…」との答え。こうした感性も大切にしたいところです。

木工がはじまって2週目の子どもたちは、すでに頭の中にアイデアがいっぱいある様子で、どの子どもも作業に集中していました。同じ材料から、自分だけの木工作品を作ろうとアイデアを練り、紙やすりを動かし、接着剤で止めて、乾かして、と丁寧に時間をかけて、世界で一つだけの作品ができあがりしました。

子どもたちの質問も活発でした。「先生は何種類くらいの木材を見分けられますか？」「世田谷区には全部で何本の木がありますか？」などの難問(?)を、大林教授は楽しく受け止めてお答えくださいました。大学生の質問とは一味違う、子どもたちならではの質問ばかりのようでした。子どもたちの積極的に質問する力を、これからも伸ばしていきたいと考えています。



土佐文旦でビタミンC

2月28日(金)、子どもたちはたくさんの荷物とともに、大きな「土佐文旦」を持ち帰りました。これは、[高知県土佐市](#)「[地域おこし協力隊](#)」事業の一環として、ご提供頂いたものです。果物の皮むき等の手間が敬遠される昨今の消費傾向の中、土佐市の特産である土佐文旦も敬遠されやすい品目の1つだそうです。



そこで、本校の食育の一環として、子どもたちや保護者の皆様に、土佐文旦の美味しさを伝える授業が計画されたものです。

3月4日(水)に、土佐市から東京農業大学の卒業生水谷任佑氏が来校し、土佐文旦についてのミニ講義をする予定となっていました。水谷さんは、世田谷区出身で、東京農業大学第一高等学校から、東京農業大学国際農業開発学科、そして同大学院博士前期課程を経て、高知県で就農した経歴を持っています。ところが、楽しみにしていた水谷さんのミニ講義は、残念ながら、一斉臨時休業のため中止になってしまいました。

すでに2月27日(木)には、本校にたくさんの土佐文旦が配達されていました。そこで、土佐市「[地域おこし協力隊](#)」や水谷さんにご了解を得て、子どもたちに配布しました。瑞々しい土佐文旦と、簡単に皮むきのできる小鳥型の皮むき、そして文旦ジェリーも一緒です。ちょっと重かったけれど、本校の子どもたちと保護者には、土佐文旦について理解を深めていただけたものと思います。

インターネットの活用

本校では、日頃から、学校と保護者の連絡をメールやインターネットを活用して行っています。突然の一斉臨時休業でしたが、家庭学習のお知らせなども順次、保護者にHPを通して連絡しています。

また、インターネットの活用により、確実に、また、随時、保護者や子どもたちにメッセージを送ることができると考えています。どのような場合でも、また、いつでも正確な情報を得て、最善の対策がとれるよう、本校も努力してまいります。

校長 夏秋 啓子